

氏名	多田光太郎
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 5065 号
学位授与の日付	平成26年12月31日
学位授与の要件	医歯学総合研究科病態制御科学専攻 (学位規則第4条第1項該当)

学位論文題目	Increase of DC-LAMP+ mature dendritic cell subsets in dermatopathic lymphadenitis of mycosis fungoides (菌状息肉症の皮膚病性リンパ節腫脹において、DC-LAMP陽性の成熟樹状細胞が増加している)
--------	--

論文審査委員	教授 吉野 正 教授 鵜殿 平一郎 准教授 片山 博志
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

菌状息肉症(MF)のリンパ節病変における免疫環境はあまり明らかにされていない。今回、MFの皮膚病性リンパ節における樹状細胞(DC)のサブセットを調べた。方法：14人のMFの患者から得られたリンパ節をサンプルとして使用した。そして、コントロールとして微小転移のない悪性黒色腫のセンチネルリンパ節を使用した。DCのマーカーとして(DC-LAMP(CD208), DC-SIGN(CD209), Langerin(CD207), CD1a)を使用した。結果：S-100蛋白陽性の細胞(DC)は、MFのリンパ節で著明に増加していた。副皮質では、特にDC-LAMP陽性の成熟なDCがコントロールに比べ増加していた。一方髄質では、コントロールに比べDC-SIGN陽性の未熟なDCが減少していた。ランゲリン陽性細胞、CD1a陽性細胞はコントロールに比べ差はなかった。また、M2マクロファージがN2, N3 stageのリンパ節では見られたが、コントロール、N1 stageでは見られなかった。結論：MFは病期の進行にともない、DC-LAMP陽性細胞、M2マクロファージが増加し、そのことは腫瘍の進展に関与することが推測された。

論文審査結果の要旨

本研究は菌状息肉症(MF)における皮膚病性リンパ節の中の樹状細胞(DC)のサブセットを検討したものである。14例のMF症例を対象とし、コントロールとしては転移のない悪性黒色腫のセンチネルリンパ節を用いた。DCマーカーとしては、CD208, CD209, CD207, CD1aを検討した。その結果、S100蛋白陽性のDCはMFリンパ節で著明に増加していた。副皮質ではCD208陽性の成熟DCがコントロールに比べて増加していた。一方、髄質ではコントロールに比べCD209陽性の未熟なDCが減少していた。CD207, CD1a陽性細胞はコントロールとの差がなかった。また、M2マクロファージがN2, N3 stageのリンパ節ではみられたが、コントロール、N1 stageでは見られなかった。このような所見は腫瘍の進展に関係する可能性を示した。

研究の目的、手法、結果とその解釈とも適切になされており、菌状息肉症に関する重要な知見を得たものと評価される。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。